

折りたたみ電動アシスト自転車

GRIFIN

JCL-EAB14

取扱説明書

この度はお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に本取扱説明書をよくお読みになり、使用方法と注意事項をよくご理解ください。また、取扱説明書は必要に応じてご活用頂けるように取出しやすい場所に保管してください。

⚠ 必ずお読みください

○製品保証書にはお買い上げ販売店名の記入、捺印及び購入日と車体番号などの必要記入事項の漏れが無いことを確認してください。

CONTENTS

はじめに	2
安全上のご注意	3
製品仕様	8
各部名称	9
組み立て方法／折りたたみ方法	11
乗車前の点検	15
ブレーキについて	16
お手入れ・注油について	17
保管について・事故などのときは	18
電動アシストの操作	19
交通ルールを守りましょう	22
防犯登録について	26
点検・チェックリスト	27
製品保証書	巻末

※本取扱説明書のイラストはイメージです。

実際の製品と異なる場合があります。

※製品改良のため、予告無くデザイン及仕様を変更することがあります。

株式会社TOHO

ホームページ

<https://toho-corporation.com/>



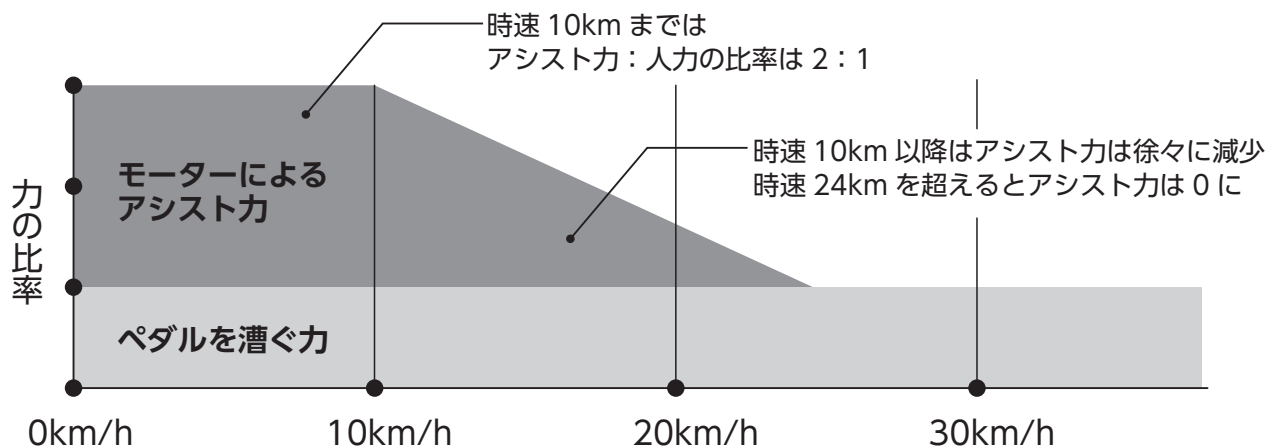
はじめに

本製品はモーターユニットを内蔵し、走行時にモーターがペダルを漕ぐ力を助けてくれる折りたたみ式電動アシスト自転車です。一般の自転車と同じように運転できますが、折りたたみ式電動アシスト自転車の使用方法を使用前によく読みの上、正しくお使いください。

●モーターのアシスト力により、楽に走行できます。

ペダルを一定以上の力で漕ぐとアシスト力が働き、普通の自転車よりも軽く踏むだけで走行することができます。上り坂や荷物を積んだ時など、アシスト力で楽に走行できます。

モーターのアシスト力とペダルを踏む力の割合は、下記の通りです。



※次のようなときは、アシスト力が働きません。

- ・左右のブレーキを操作中。
- ・走行速度 24km/h 以上のとき。
- ・ペダルを踏む力が弱い、又はペダルに負荷をかけていないとき。
- ・バッテリー切れのとき。

※踏力や積載荷物の重量、道路状況などにより、楽になる度合いは個人差があります。

※軽量で安全な、リチウムイオンバッテリーを使用しています。

●バッテリーが切れた場合でも、通常の自転車として走行可能です。

お出かけ先でバッテリーが切れてしまった場合でも、通常の自転車と同じように走行することが可能です。

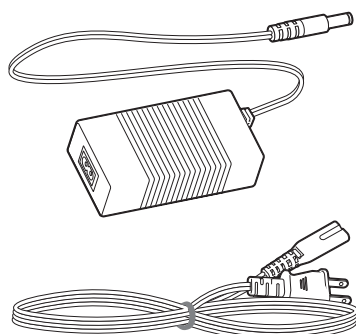
●運転免許証は不要です。

電動アシスト自転車は運転免許証なしで乗る事ができます。

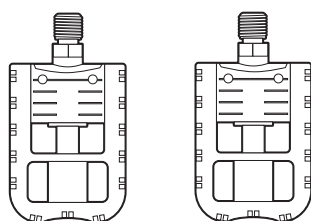
※駐輪時は運転中に自転車が動き出す事の無いよう、平坦な堅い路面上でスタンドロックを使用してください。

また盗難防止のためワイヤー錠などで施錠してください。

●本体以外の付属品



●バッテリー充電用アダプタ／
電源コード × 各 1



●左ペダル × 1 ●右ペダル × 1

※左ペダルは左ねじになっています。
※付属スパナを用いて取付けてください。



●六角レンチ
※ブレーキの角度調節等用です。

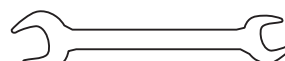


●後輪泥除け × 1



●バッテリー鍵 × 2

※予備のカギはリングから
外し、別場所に大切に
保管してください。



●スパナ 各 1
※ペダル取り付け用です。

1. 安全上のご注意

自転車一般の注意事項も記載しています。

- 間違った取り扱いや調整は事故につながる恐れがありますので、危険・警告・禁止・注意・強制事項を必ず守ってください。
- 乗車前の「日常点検」と自転車店での「2か月以内／1年ごとの定期点検」を必ず実行してください。（点検費用はお客様負担となります。）
- メンテナンスや取り扱いの方法がわからないときはお近くの自転車店、または販売元までご相談ください。
- 小さなお子様には使用させないでください。未成年の方が使用する場合は、大人の方が取り扱い方法、交通ルールをよく説明し、正しく乗車できるようご指導ください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管し、必要なときにお読みください。
- この自転車は**一般道路用**です。オフロードや競技用には絶対ご使用にならないでください。

この項目では、人への危害や財産の損害を防ぐための注意事項を説明しています。本取扱説明書で使用する各マークには下記の意味があります。



危険

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■絵表示と絵表示の意味



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

⚠ 危険



走行中、前輪ロックが起きないように、下記の点を必ず守る。

- 肩掛けバッグ、ロープなどひも状のものや傘などの長い棒状のものを積載したり、手にもったり、ハンドルにかけて運転しないでください。
- 前輪に足をかけたり、足をペダルから外して運転しないでください。

車輪に巻き込み、ロックの原因になります。車輪がロックすると重大事故の原因になります。



乗車前に毎回、ブレーキを点検し、ブレーキがきかない、不調な状態で運転しない。

- 車輪やディスクブレーキの各部品には注油しないでください。ブレーキハンドルが正常ではない状態で運転しないでください。重大事故の原因になります。



周囲の歩行者の危険になる突起物を車両につけた状態で運転しない。

- 傘や竿などの長い棒状のものを持ったり、本体に取り付けしないでください。
- 装飾物をつけるなど改造をしないでください。衝突によって重大事故の原因になります。



道路交通法を遵守し、危険な運転をしない。

- 自転車が通行可能な道路のみを通行してください。（歩道での走行は標識などを確認し、許可された場合のみ走行してください）
- 飲酒運転・無灯火・2人以上で乗る・スピードの出しすぎ・並走・整備不良での運転をしないでください。重大事故の原因になるほか、法令違反により罰せられます。



⚠ 運転中に関する警告



積載条件を超える荷物は積載しない。

- 荷物を積む場合は荷台を正しく取り付け、その上に規定の大きさ、重量を守って、ずれたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。バランスを崩し、転倒する恐れがあります。



二人乗りをしない。幼児は乗せない。

- この自転車には幼児を乗せることはできません。幼児用のイスも取り付けないでください。



スポークの間に固形物(ボール等)を入れて走らない。

- ボールが移動し、ブレーキパッドなどに接触し、転倒や車輪ロックの原因になります。



犬や猫などのペットを乗せない。リードを引きながら運転しない。

- ペットが飛び出すと自分にも周囲にも危険です。リードが車輪に絡まると重大事故の原因になります。



滑りやすいところでは乗らない。

- 積雪や、凍結した道、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷きなどでの運転はスリップ等をして大変危険です。
- 雨や雪、強風などの日には運転はしないでください。



無灯火で乗らない。

- 夜間、乗車の際は必ずライトを点灯してください。(ライトは別途ご購入ください。)



運転中にスマートフォンや音楽プレーヤーなどを操作しない

- 重大事故の原因となります。
- 運転中の通話も危険です。ハンズフリーであっても通話や操作はしないでください。



イヤホンやヘッドホンをして運転しない。

- 周囲の音が聞こえない状態で運転すると重大事故の原因になります。



両手でハンドルを握って運転する。

- 合図をする時以外ハンドルから手を離さないでください。
- 危険回避などの急な操作ができずに衝突や転倒の恐れがあります。雨の時に傘をさして片手運転等はしないでください。



ぬれた道や下り坂などではスピードを出さない。

- ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため思わぬ事故や転倒による怪我の恐れがあります。
- 特に急な上り、下りは自転車を降りて押してください。



スピードを出しすぎない。

- この自転車の適正な乗用速度は8～12km/hです。また、歩道(自転車の走行が許可されている場所)では必ず徐行し、いつでも止まれるよう、注意して運転してください。
- スピードを出し過ぎると、ハンドル操作が難しく、ブレーキも効かなくなり、事故を招く恐れがあります。
- カーブではスピードを出さないでください。曲がりきれずに思わぬ事故を招きます。
- カーブでは急制動をかけないでください。横すべりをおこし転倒する危険があります。

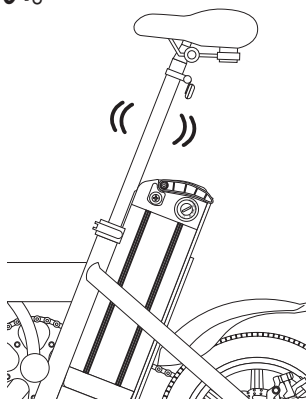


⚠ 整備・点検に関する警告



シートポスト及びハンドルポストのはめ合わせ限界標識を超えない。

- シートポスト及び、ハンドルポストの限界標識線がフレームの中に隠れる状態でお乗りください。サドルやハンドルの折れや抜けにより転倒し、ケガをする恐れがあります。



異常がある時は乗らない。

- 点検せず異常のあるままで走行すると事故や転倒による怪我の恐れがあります。異常を発見したらご自身で修理せず、販売店にご相談ください。



リフレクターが汚れていたり、破損・取外ししたまま乗らない。

- テールランプ及びリフレクターは後方の車両からの確認をする上で大変重要です。



改造しない。

- 正規に認められた部品以外の部品を取り付けたり、ハンドルなどの形状を変えないでください。重大事故の原因になります。
- 日常点検や保守の範囲を超えて改造を行うと保証の対象外となります。



組立後やハンドル、サドルの調整後にレバーの固定を確認する。

- 車輪やサドル・ハンドルが外れて転倒による怪我の恐れがあります。レバーが正しく固定されているか確認してください。

乗車ごとにブレーキを点検し、ブレーキがきかない、不調な状態で運転しない



- 本製品はディスクブレーキを採用しています。ディスクブレーキの点検、メンテナンスは年一回以上、お近くの自転車店で受けてください。



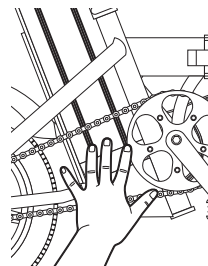
各部品に破損や緩み、変形などが見られた場合は運転せず、修理を行う。

- 走行中に外れると重大事故の原因になります。販売店にご相談のうえ、交換してください。



回転部には触れない

- 回転部(前、後車輪、チェーン部)が動いている時は手、足で触れないでください。特に掃除やお子さまが遊んでいる時などに回転部に手や足を突っ込まないよう注意してください。



ベアリングを使用している箇所にグリス以外のものを塗らない。

- ベアリング使用箇所にスプレー式の潤滑油を吹付けると、中のグリスが溶け出てベアリングのガタつきや破損が生じますので、絶対にしないでください。



チェーンなどの注油の必要な箇所には適切に必ず注油する。

- 運転に支障が出たり、部品の損耗をはやめる原因になります。



タイヤの空気圧が適切でない状態や、パンクした状態では運転しない

- 空気圧を確認し、適切に調整してください。空気圧が低下した状態で運転するとパンクを誘発します。



⚠ 電動アシストに関する警告



電動アシスト自転車に慣れるまでは車や人の多い道や歩道では乗らない。

- 電動アシスト自転車は普通自転車より軽く発進できます。普通自転車と同じようにペダルを踏むと、電動アシストが作動して普通自転車以上に加速するので驚いて転倒や衝突の恐れがあります。
- 安全な場所で練習して電動アシストの感覚に慣れましょう。
- 危険な走行（高速走行、急坂登坂）はせず、年齢や体力にあった走り方をしてください。



発進時はペダルを強く踏み込みすぎない。

- 思わぬ急発進により転倒事故によるけがの恐れがあります。一般の自転車のように強く踏み込まなくても楽に発進することができます。



発進はサドルに座って行う。(けんけん乗りは行わない)

- 走り出す前に必ずサドルに座ってから発進してください。けんけん乗りをすると、電動アシストが作動することで自転車だけが前に進み、体を取り残される場合があり、転倒や接触事故につながる恐れがあります。



水洗いによる洗車をしない。雨天時、屋外に放置しない。

- バッテリーやモーターを搭載しているため、水洗いはしないでください。故障の原因となることがあります。万一、バッテリーやモーターが水に浸かった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。



バッテリーに衝撃を与えない。

- 液漏れや故障の原因となります。



バッテリー・モーターを修理・改造しない。専用バッテリー以外を使用しない。

- 発火したり異常動作してけがをすることがあります。



バッテリーの+と-を金属などで接触させない。

- 発熱・発火・感電する恐れがあります。



バッテリーをほかの機器に使用しない。

- 電池の液漏れ・発熱・破裂の原因になります。



バッテリーを熱したり火中に投じない。

- 電池の液もれ・発熱・破裂の原因になります。



充電には専用充電器のみを使用する。

- 専用充電器以外のものを使用すると、最大出力電流や極性が異なっている事があるため、火災の原因になります。



バッテリーや駆動部に水をかけたり、水中に投下しない。

- 感電、故障の原因となります。



バッテリーを損傷したまま使用しない。

- 液もれや発熱の原因となります。



幼児や取り扱いに不慣れな方に使わせない。乳幼児やペットの手の届く所に放置しない。

- 感電・怪我をする恐れがあります。



電源コードを傷つけない。

- 痛んだまま使用すると、感電・発火・ショートする恐れがあります。



ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしない。

- 感電の恐れがあります。



本製品は日本国内のみで使用する。

- 交流100Vでご使用ください。海外など異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



電源プラグのほこり等は定期的に取り除く。

- 火災の原因となります。



電源プラグは根元まで確実に差し込む。

- 差込が不十分ですと感電や発熱による火災の原因となります。

⚠ 注意

-  **視界の悪いときは運転しない。**
 - 雨や霧など、見通しが悪い時に運転すると、衝突や転倒の恐れがあります。
-  **凹凸の激しい所を走らない。**
 - ハンドルがとられたりふらついたりする上、タイヤ・リムを損傷します。自転車を降りて押して歩いてください。
-  **走行以外の用途に使わない。**
 - 自転車を走行以外の事(踏み台替わり等)に使用しないでください。転倒による怪我の恐れがあります。
-  **運転に適した安全な服装で乗車する。**
 - マフラーや裾の長いスカートなどの運転しにくい服装はやめてください。車輪などからまる危険があります。
 - 滑りやすい靴やかかとの高い靴、また裸足やサンダルなどで乗車しないでください。転倒によるケガの恐れがあります。
-  **自転車の運転初心者が乗車する場合は適切な講習を受け、安全な場所で練習をする。**
 - ブレーキ操作を含む運転操作が適切に行えるか確認してください。
 - 初心者の自転車練習は公道で行わず、周囲に人や障害物のない、かつ自転車の使用が許可された場所で行ってください。
 - 自転車用ヘルメット(JIS T8134適合もしくはSG企画適合の自転車用ヘルメット。もしくは同等以上のもの)を着用してください。
-  **平地以外の走行はしない。**
 - 山岳・河川、その他それに類似する場所では使用しないでください。ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキが効かなくなったりして、転倒の恐れがあります。
-  **スタンドを完全にはね上げていない状態で乗車しない。**
 - カーブのときスタンドが地面と接触し、転倒による怪我の恐れがあります。
-  **荷物を積載している時、運転操作に特に注意する。**
 - 大きさや重さが規定の内容を超える荷物を積載すると、自転車の安定性が損なわれ、転倒・事故を起こす恐れがあります。
 - 積載条件を超えない荷物でも、操舵性や制動性能が異なります。積載可能な条件の範囲であっても不安を感じる場合は運転を中止してください。
-  **ブレーキ操作は正しく行う。**
 - 片側だけ(特に前ブレーキ)のブレーキをかけるとバランスを崩して転倒し、怪我の恐れがあります。
 - 運転中は、常にブレーキレバーをすぐ握れるようにしてブレーキは前後ともかけてください。
 - 急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。前方に注意して安全走行してください。
-  **カーブで曲がる側のペダルを下げない。**
 - ペダルが地面に接触し、転倒する恐れがあります。
-  **バッテリーや充電器にカバーを被せたり上に物を置かない。**
 - 充電中、バッテリーは高温になるため、火災の原因となります。
-  **バッテリーを長期間使用しない場合は自転車からはずして湿気の少ない場所に保管する。**
 - 長期間保存後は、充電してからお使いください。長期間使用しない場合でも30日に1度は充電してください。
 - 保存環境は温度:00~00℃、湿度:00~00%の範囲で保存してください。

2. 製品仕様

自転車仕様	サイズ	約1220(長さ)×510(幅)×950(高さ)mm ※折りたたみサイズ 約660×365×645mm
	クランク長さ	185mm
	スタンドパイプ伸縮長さ	300mm
	タイヤ空気圧	240-300KPa (35-44PSI)
	タイヤサイズ	14×2.125インチ ワンダタイヤ
	ブレーキ方式	前後ディスクブレーキ ホースマン
	最大積載重量	120kg
	運転者対象年齢	13歳以上
	重量	約20.4kg
	素材	フレーム:鉄
電動アシスト仕様	最高アシスト速度	24km/h
	バッテリー使用距離目安	運転者体重75kg、最高速度 24km/hのとき、アシストモード 32~40km
	最大登坂角度	15°
	バッテリー用充電アダプタ	出力42V、1.5A／入力100~240V (50-60Hz)
	バッテリー容量	7.5Ah／270Wh
	充電時間	3~4時間

3. 各部名称

- ①グリップ
- ②ハンドルステム
- ③左ブレーキ (③右ブレーキ)
- ④ハンドルステム固定レバー
- ⑤ヘッドチューブ固定レバー
- ⑥反射板 (前)
- ⑦コード
- ⑧ヘッドチューブ
- ⑨コントロールパネル
- ⑩ベル

- ⑬シートステー
- ⑭シートピラー固定レバー
- ⑮シートピラー
- ⑯反射板 (後)
- ⑰サドル

【本体左側面】

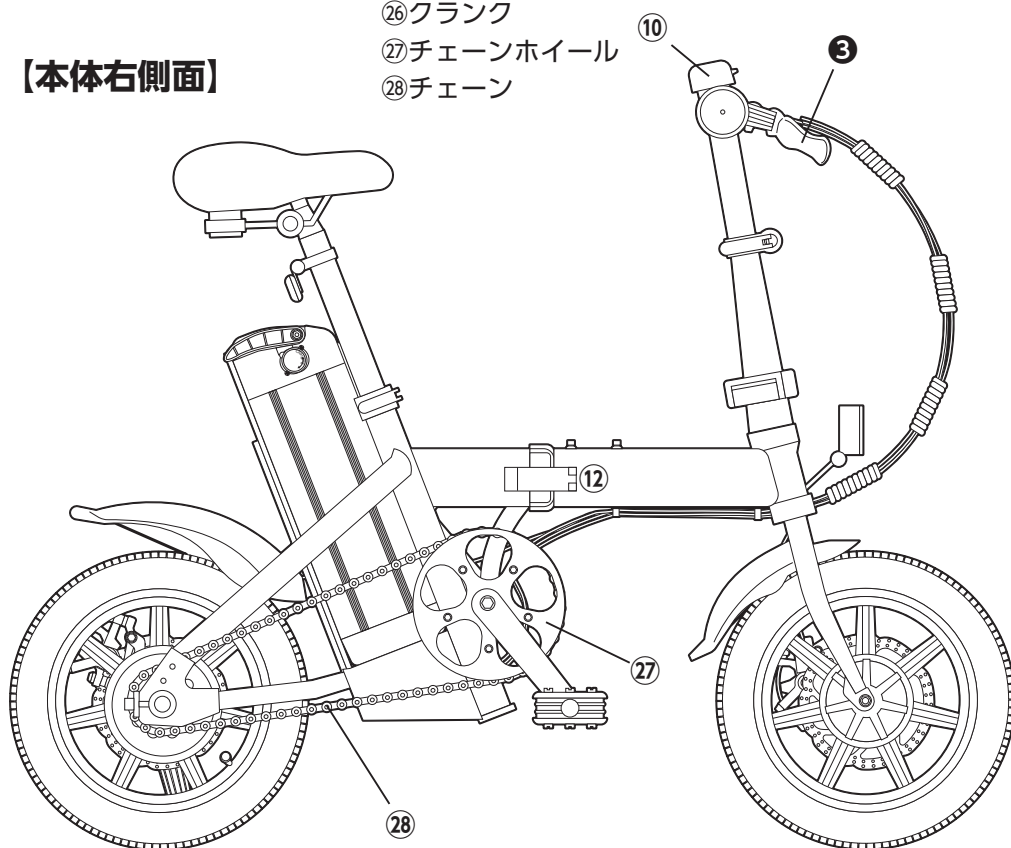
- ②⑨バッテリー
③⑩バッテリー接続部

- ⑮タイヤ
⑯ホイール
⑰スポーク
⑱ディスクブレーキ

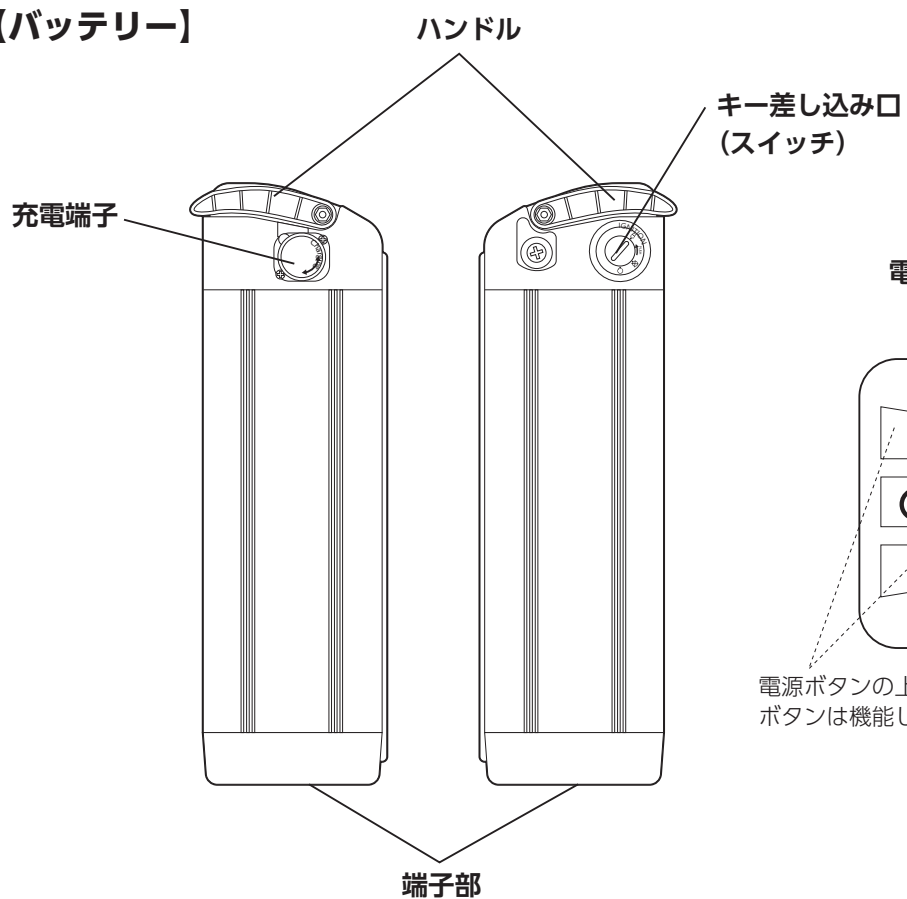
- ②⑤ペダル
②⑥クランク
②⑦チェーンホイール
②⑧チェーン

- ②②バルブ（米式バルブ）
②③泥除け
②④スタンド

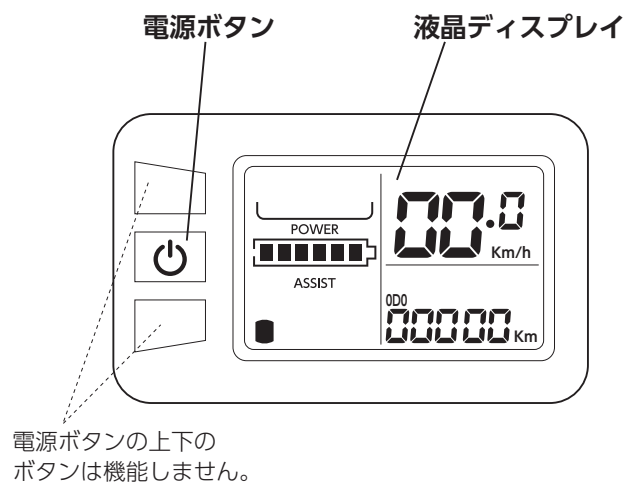
【本体右側面】



【バッテリー】

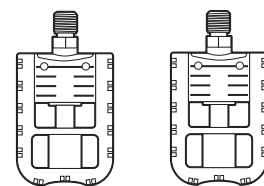
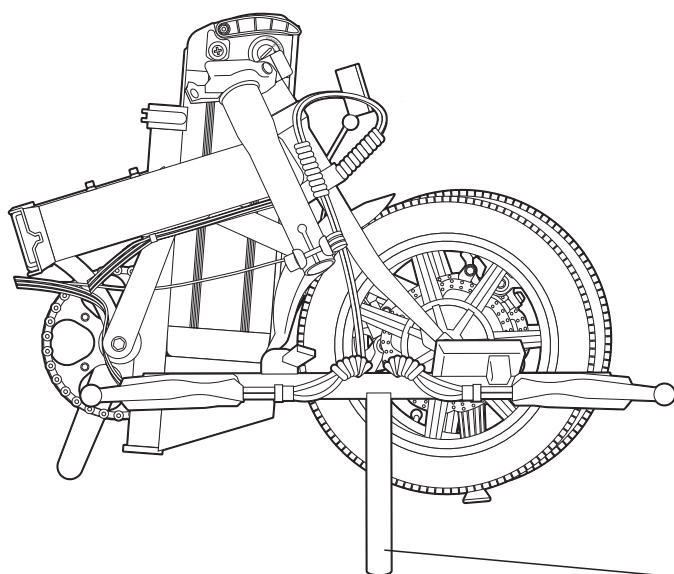


【コントロールパネル】



4. 組み立て方法／折りたたみ方法

ご購入後、はじめて組み立てるとき



左右ペダルの取り付け



後輪泥除けの取り付け

ハンドル・サドルの差し込み

梱包のため、一部部品を取り外した状態で出荷されています。

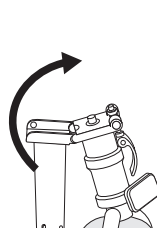
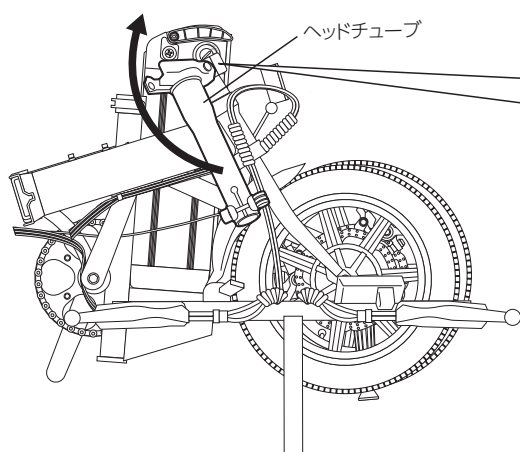
ご購入後、はじめて乗車される前に、正しく組み立ててください。

※初回の組み立て後、公道を走行する前にお近くの自転車店で必ず点検を行ってください。また、点検と同時に防犯登録を行ってください。

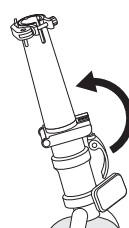
※組み立てに不安がある場合は、組み立てをお近くの自転車店にご依頼ください。

1 ハンドルステムの差し込みと固定

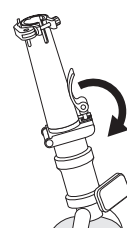
ヘッドチューブを立て、ハンドルステムをヘッドチューブに差し込んでください。



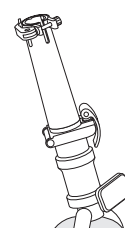
①ヘッドチューブを立てます。



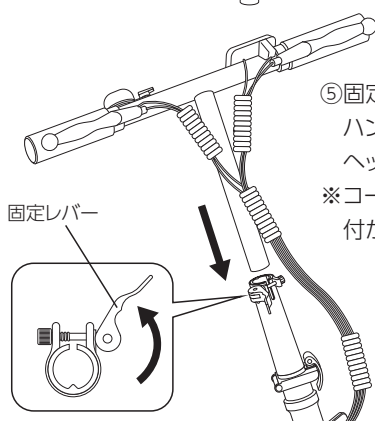
②固定レバーをシャフトごと、上に上げます。



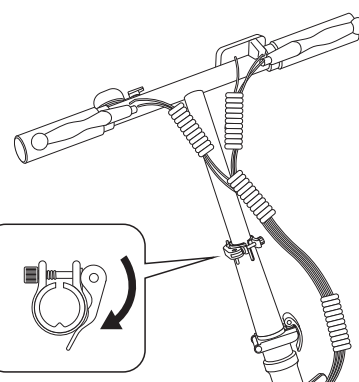
③固定レバーだけ下げます。



④ロック完了です。



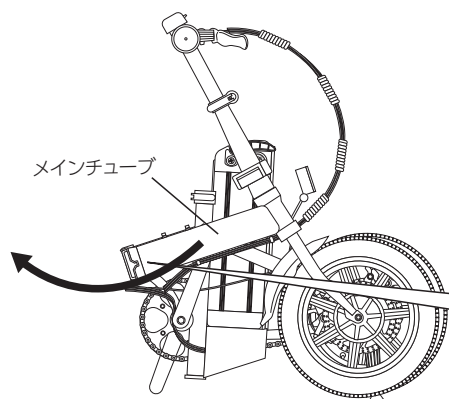
⑤固定レバーを解除し、ハンドルの向きを確認して、ヘッドチューブに差し込みます。
※コードがハンドルステムに巻き付かないようにご注意ください。



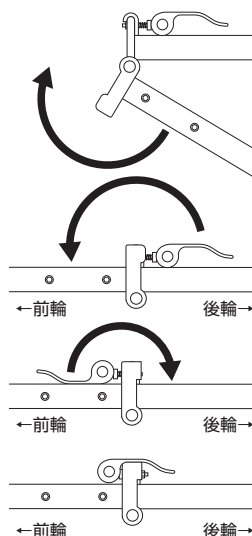
⑥ハンドルの高さを調節し、固定レバーで固定します。
※組み立て後、乗車する前に再調整してください。

2 メインチューブの固定

折りたたまれているメインチューブを広げ、レバーで固定します。



【上から見た図】



①メインチューブを直線状に戻します。

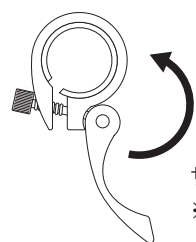
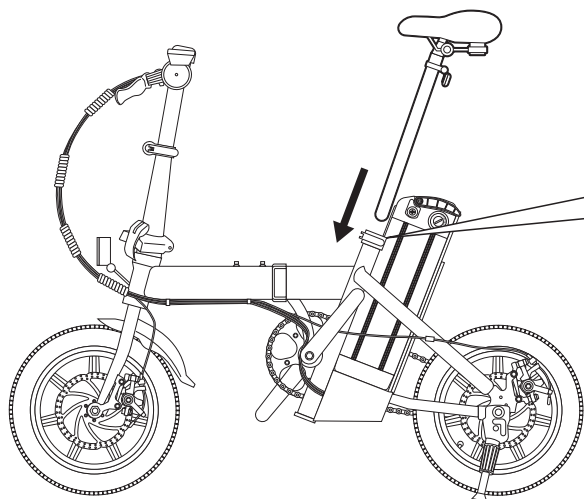
②固定レバーをシャフトごと前輪側へ倒します。

③固定レバーだけを後輪側へ倒します。

④固定完了です。

3 サドル(シートピラー)の差し込みと固定

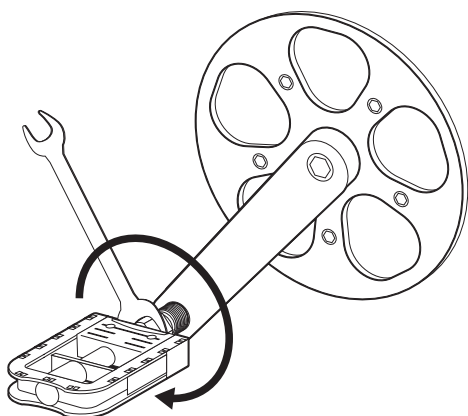
折りたたまれているメインチューブを広げ、レバーで固定します。



サドル差し込み後、固定レバーで固定します。
※組み立て後、乗車する前に高さを再調整してください。

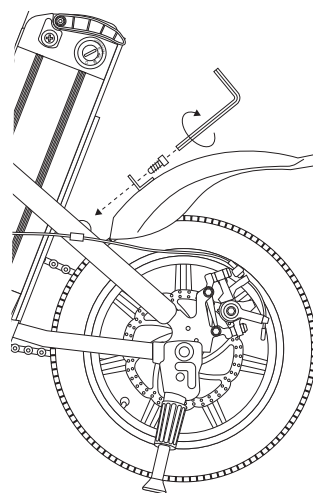
4 ペダルの取り付け

左右のペダルを付属のスパナを使用し、取り付けてください。



図は右ペダルの取り付けです。
左ペダルは、スパナを回す方向が逆になります。

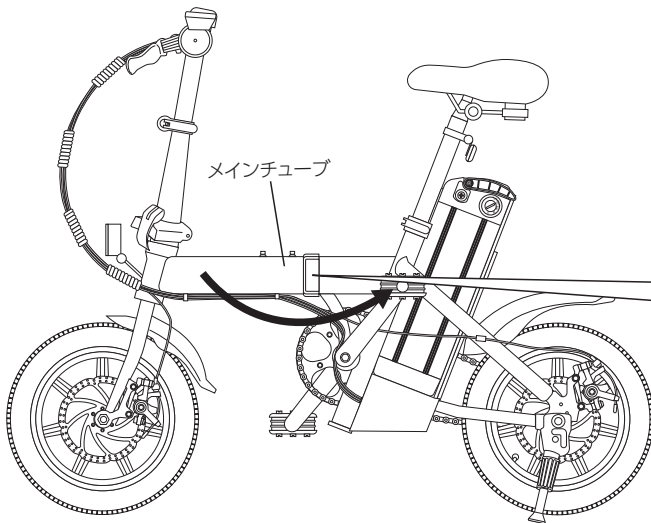
5 後輪泥除けの取り付け



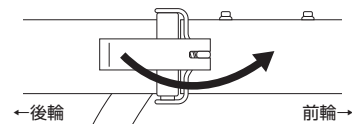
梱包の都合により、後輪の泥除けを外した状態で出荷しています。
組立時、ビスで図の位置に固定してください。

① メインチューブを折りたたむ

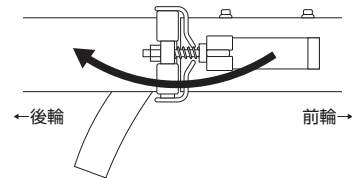
レバーを操作し、メインチューブを折りたたみます。



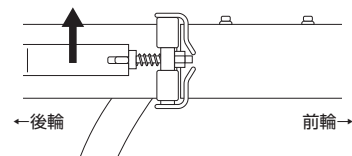
【右側面】



① 固定レバーを前輪側へ倒します。



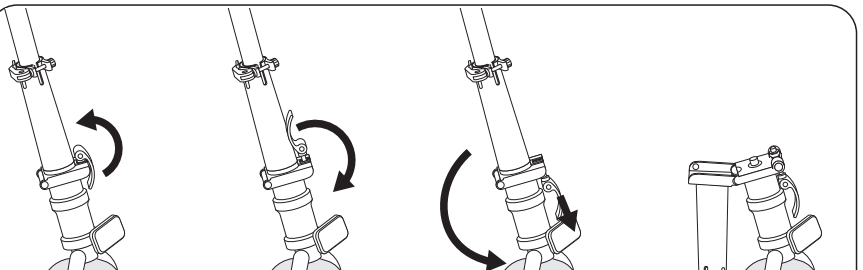
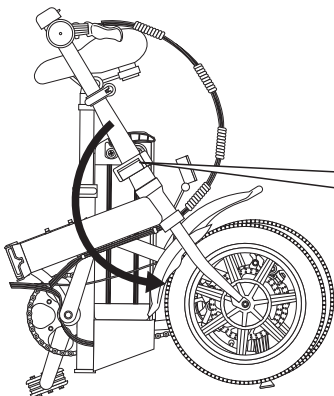
② 固定レバーをシャフトごと後輪側へ倒します。



③ 固定レバーだけを上に持ち上げながら前輪側のメインチューブを左へたたみます。

② ヘッドチューブを折りたたむ

レバーを操作し、ハンドル(ヘッドチューブ)を折りたたみます。



① 固定レバーを上げます。

② 固定レバーをシャフトごと下げます。

③ 固定レバーを前輪側へ引きながらヘッドチューブを倒します。

※収納場所に依じて、サドルやハンドルを下げてください。

組み立て方(通常時)

通常時の組み立ては、「はじめて組み立てるとき」の手順を参考に、

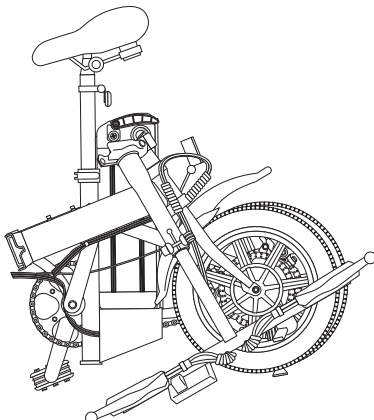
① ヘッドチューブを立て、固定する

② メインチューブを戻し、固定する

③ ハンドル／サドルの高さを調節する

の順序で作業してください。

※必ず、各固定レバーが確実に固定されているか確認してください。



折りたたみ時・組み立て時のご注意

- 収納や組立時にジョイント部分の動きが固くなったり長期にわたり稼動していない時には、ジョイントを開き、スプレー式の潤滑油などを注油してください。
- 収納状態で運搬し、外で組み立てて使用する場合は、お出かけ前に一度組み立てて、部品等を確認してからご使用ください。
- フレームを折りたたむ時や組立時には手や腕をはさまないように注意をしてください。
- 自転車を折りたたんだ時には自立しなくなるので倒れないようにささえてください。
- チェーンホイール等を地面にぶつけないようにしてください。
- ハンドルやサドルをセットした後は、かならず両手で左右に動かして固定されていることを確認してください。左右に動く時は固定力が不足しています。再度、調整をしてからご乗車ください。(15ページ)

5. 乗車前の点検

サドル・ハンドルの高さ調節

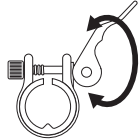
サドルは乗車した際に両足がつく高さに調節してください。

ハンドルは、乗車時に胴体がやや前傾姿勢になる高さに調節してください。

レバーで固定してもハンドル・サドルが動いてしまう場合／レバーが固くて動かない場合
(固定がゆるい／きつい場合)

レバーを解除した状態で、ツマミやレバーを回して締め具合を調節できます

【ハンドルの締め具合調節】

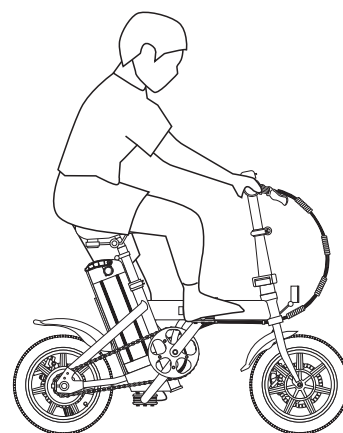


レバーを回します。

【サドルの締め具合調節】



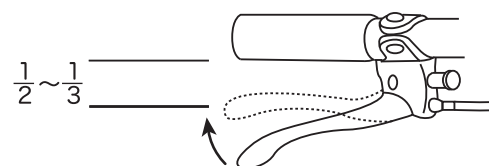
ツマミを回します。



ブレーキの点検

- ブレーキレバーを握って自転車を押し進めた時、ブレーキレバーとニギリのあいだが $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{3}$ になるまでにブレーキが効く。
- ブレーキレバーの取付け台のゆるみやガタが無い。
- ブレーキレバーの作動には、特に注意し、ワイヤーのサビ、折れ曲がりがない。

※ブレーキの調整が必要な場合は、お近くの自転車店にご依頼ください。



タイヤ空気圧の点検

- 本自転車の適正タイヤ空気圧は240-300KPaです。
※「米式バルブ」用エアポンプが必要となりますのでサイクリングショップ等にお問い合わせください。
- 乗車時にいつもより振動がある、安定して走行できていないなど、違和感があった場合にはタイヤ空気圧を点検し、低下していた場合は空気を補充してください。
- パンクしている場合は乗車せず、お近くの自転車店に修理を依頼してください。

各固定レバーの点検

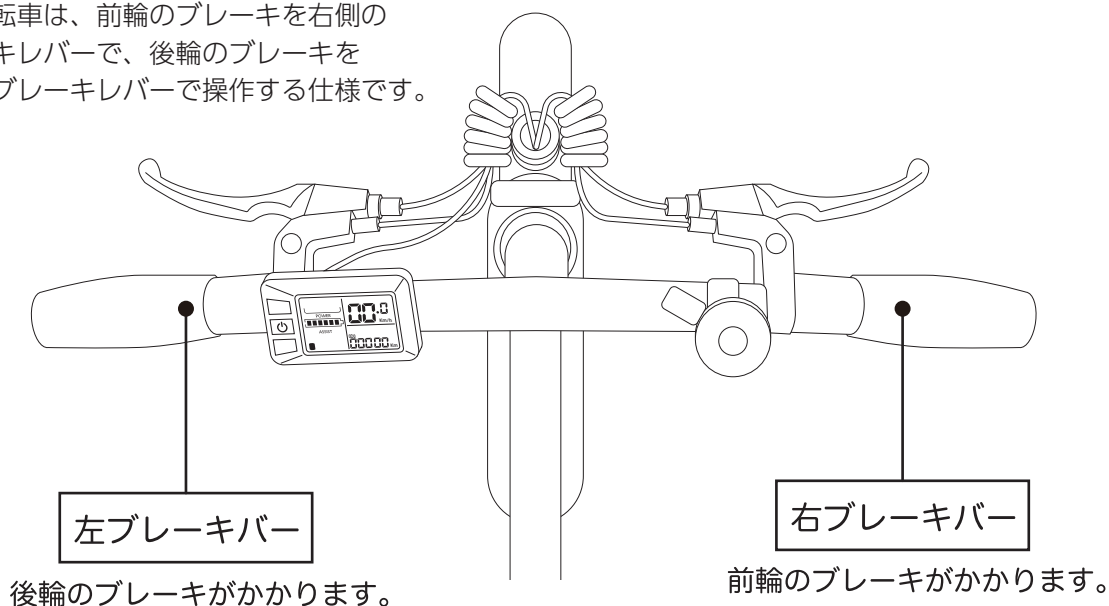
- メインチューブ、ヘッドチューブ、ハンドル、サドルの4箇所の固定レバーが確実に固定されているか確認してください。走行時にこれらの固定レバーが動くと、大変危険です。

各ネジ固定箇所の点検

- 固定レバー以外のネジに緩みがないか、確認してください。
- 前輪側、後輪側で車体を持ち上げ、少し揺らしてみても異音がないかを確認してください。
- ネジの緩みが疑われる場合は乗車せず、お近くの自転車店に修理を依頼してください。
- 購入後1～2ヶ月はネジの緩みが発生しやすいため、異常がない場合でも自転車店にて点検を行うことをおすすめいたします。

●ブレーキについて

この自転車は、前輪のブレーキを右側のブレーキレバーで、後輪のブレーキを左側のブレーキレバーで操作する仕様です。



ブレーキ操作は、先に後ブレーキからかけはじめ、その後で前後ともブレーキをかけてください。(前ブレーキのみを強くかけると、車輪がロックし、自転車が前方に転倒する恐れがあります。)

- この自転車には、雨天でも操作に影響が出にくいディスクブレーキを採用しています。ただし、まったく影響がないわけではないため、雨天や霧が濃い時は注意して走行してください。
- 深い水たまりや沼地、河川などは走行しないでください。
- 乗車前には必ずブレーキがきくことを確認し、異音がしたり利き過ぎる場合には、すぐに乗車をやめて販売店で点検を受けてください。
- 乗車中は、いつでもブレーキレバーを握れるようにして乗り、停車している時は、安全のため前後ブレーキをかけたままにしてください。
- 走行直後はブレーキ本体(特にディスクブレーキ)が高温になりやけどする恐れがありますので、絶対に触れないでください。
- 砂利や鉄板・白線の上などを走行する際も、スリップしやすくなります。避けて通るか、速度を落として走行してください。
- 長い坂を前ブレーキまたは後ブレーキだけで下るなど過酷なブレーキの使い方をすると、制動面が非常に熱くなりブレーキが利きにくくなる場合があります。長い下り坂では前後のブレーキをバランスよく使って安全な速度で下りましょう。

●お手入れ・注油について

フレームヘッド回転部、ギヤクランク回転部ハンガー、ハブ、ペダルなどの回転部にはグリスがつまっていますので注油は不要です。販売店での定期整備の時にグリスアップを行ってください。

■注油箇所

**1.ブレーキレバー
(前後)**
ワイヤーの可動
部に注油

2.チェーン
ワイヤーの可動
部に注油

3.ワイヤーリード
循動部へ注油

※リムやブレーキゴムなどの制動面には油を注さないでください。ブレーキが効かなくなります。

※タイヤのゴム部分に油をつけないでください。ひび割れ等劣化の原因となります。

※チェーンには油をつけ過ぎないでください。つけ過ぎた油は拭き取ってください。ほこりが付き寿命が短くなります。

※ブレーキレバーのワイヤー固定部への注油を怠らないでください。

■日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。
- 雨など水にぬれた時はよく乾燥させた後、上図の箇所に注油してください。
- 塗装部(フレーム等)
乾いた布でよく拭き、自動車用のワックスをかけ、乾いた布でよく拭き取ってください。
- メッキ部(ハブ、前後変速機部等)
乾いた布などでよく拭いたあと、「錆止め油」か「機械油」で拭き、余分な油を拭き取ってください。
- 錆びやすい場所に置くときは
トイレ、浄化槽付近、海岸、湿気の多いところに保管するときはお手入れの回数を増やしてください。

■ご注意

- シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 回転部分(ギヤ、車輪、チェーン)には手を振れないでください。
- サドル、リム、ニギリ、ブレーキレバーには、ワックスをかけないでください。
- この電動アシスト自転車は防水仕様ではありません。スチーム洗浄や水道ホースでの洗車などの洗浄はしないでください。
アシスト機能部やバッテリー部の周辺に水をかけると、すきま等から構成部品の内部に水が入り、故障の原因となることがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水に浸かった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。

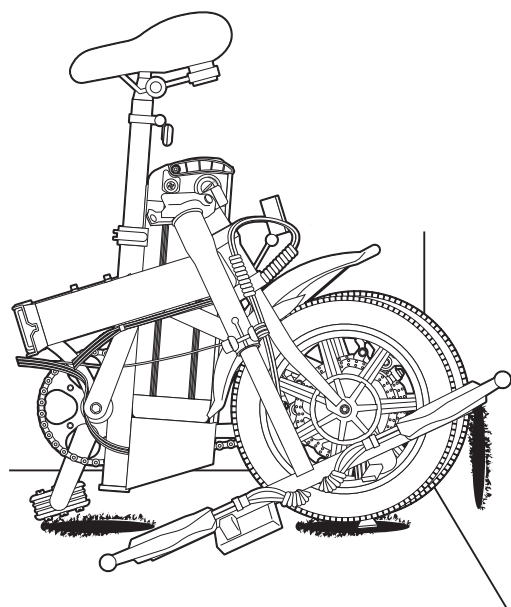
●保管について・事故などのときは

■日常の保管

- 雨のかからない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる所では、市販の「サイクルカバー」を使用してください。

室内保管の際のご注意

自転車を室内保管する時には、自転車のタイヤが直接床面や壁面に触れないように紙などを敷いて保管をしてください。床面や壁面などに直接タイヤが触れていると、床面や壁面などにしみになったり、汚れてしまう恐れがあります。また、しみや汚れが取れなくなる場合もありますので十分に注意してください。



■転倒したら

- 前ホーク、ハンドルが変形することがあります。自転車を横から見て調べてください。
- ハンドル、ブレーキレバー、ペダルを地面や障害物などにぶつけると、傷がついたり変形する可能性があります。特にハンドル、ブレーキレバーの変形や損傷などに注意してください。

■パンクしたら

- パンクしたまま乗り続けるとリム、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押してください。販売店で修理してください。
- パンクの原因は、クギ、ガラス破片などを踏んだときや道路の穴に落ちたり、段差などに乗り上げたとき、空気圧が不足の 때가ほとんどです。注意深い使用で避けることができます。

■交通事故の時

- 万一交通事故を起こした場合は、相手が歩行者、自転車、自動車を問わず応急措置の後すみやかに警察に通報してください。事故処理などの一切は、警察官の指示に従ってください。

■ブレーキの故障やブレーキワイヤーが切れた時

- ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず、降りて押してください。近くの販売店で修理してください。

■異常を感じた時

- 日常点検及び走行中に異常を感じた時は、すみやかに販売店で点検整備を行ってください。

■標準予備部品

- ブレーキワイヤーやブレーキブロック等はお買上げ店に自転車を持参の上その自転車の適合したものに取替え修理してください。
- タイヤ、チューブについてはサイズをご指定の上、純正部品をお買い求めください。
- その他バッテリー等の予備部品についてはお買上げ店またはTOHOサポートセンターにご相談の上純正部品をお使いください。

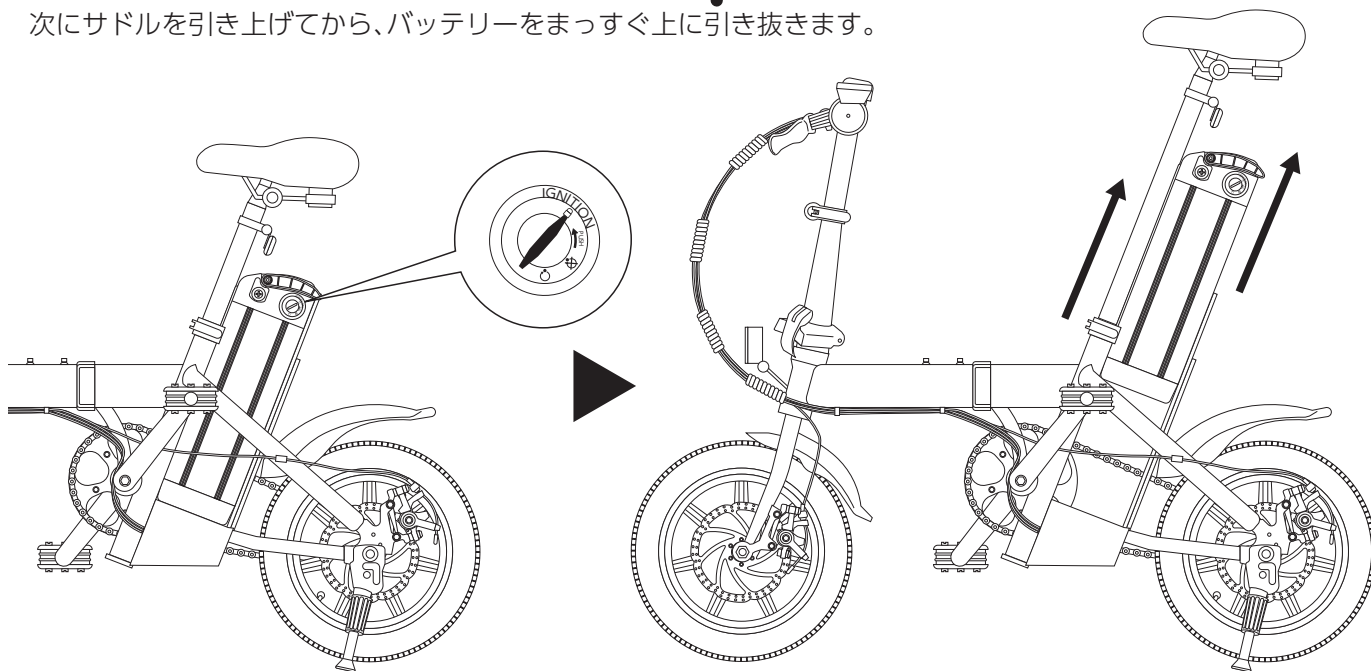
メールアドレス: support@toho-corporation.com

受付時間／月～金10:00～12:00 13:00～16:00

電動アシストの操作

バッテリーの取り外し／セット

バッテリーを取り外すには、バッテリーに鍵を差し込み、の位置に回します。
次にサドルを引き上げてから、バッテリーをまっすぐ上に引き抜きます。

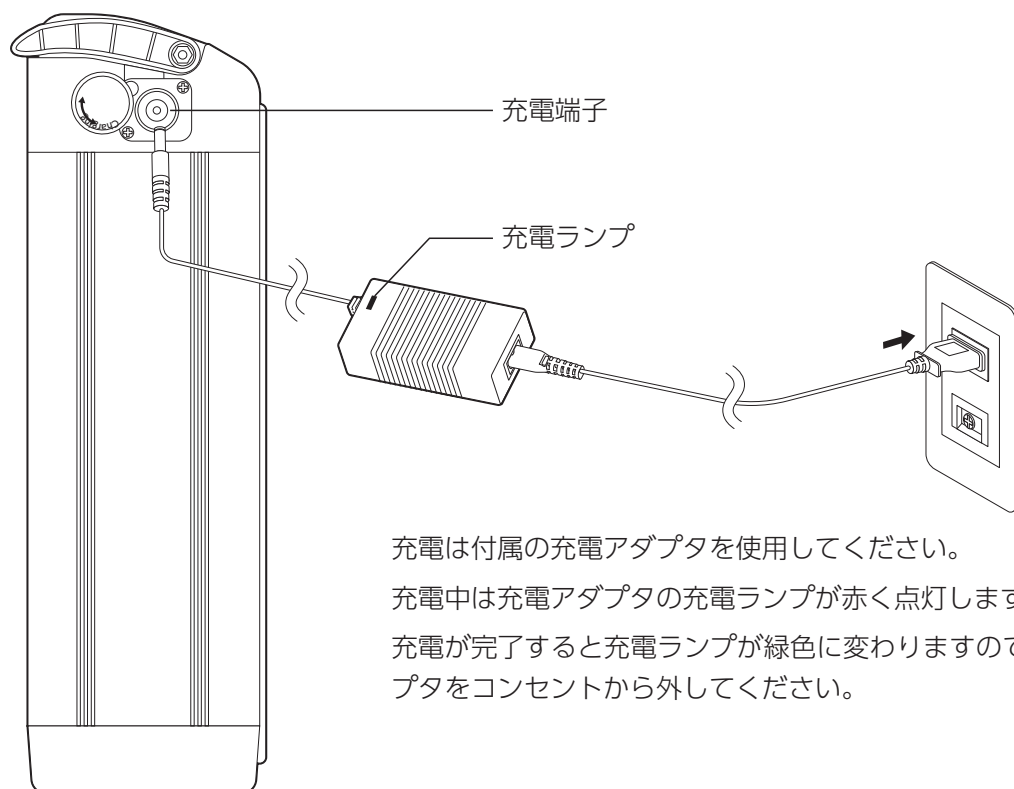


バッテリーをセットする場合は、自転車側のガイドとバッテリーの溝を合わせてセットします。
その際、キーの位置は取り外したときのまま動かさないでください。

バッテリーの充電

バッテリーの充電は自転車にセットしたままでも行えます。

※自室内のコンセントで充電を行う場合などは、バッテリーを取り外してください。



充電は付属の充電アダプタを使用してください。

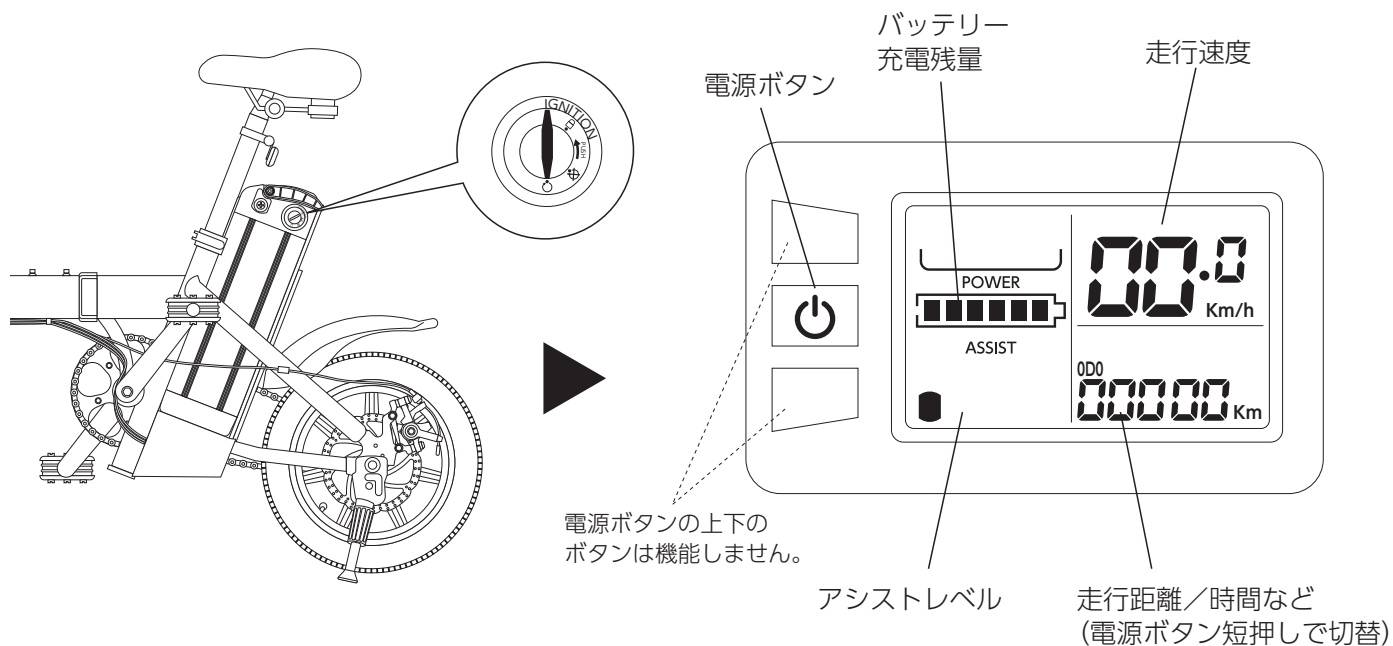
充電中は充電アダプタの充電ランプが赤く点灯します。

充電が完了すると充電ランプが緑色に変わりますので、すみやかに充電アダプタをコンセントから外してください。

電動アシストのスタート

電動アシストをスタートさせるには、バッテリーに鍵を差し込み、の位置に回します。

次にコントロールパネルの電源ボタンを長押しします。



ペダルを漕ぎ出すと、自動的に電動アシストがスタートします。

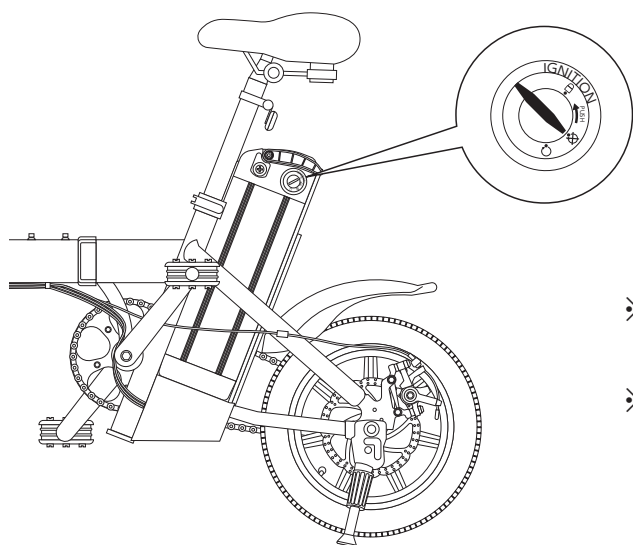
ブレーキを操作すると電動アシストは解除されます。また、自転車の走行速度が時速24kmに達しても電動アシストが解除されます。

コントロールパネルの電源ボタンを長押しすると電動アシストが終了します。

駐輪時には

駐輪場などに一時的に駐輪する場合は、バッテリーの鍵を  の位置に合わせ、鍵を抜きます。

この状態で、バッテリーはロックされ、引き抜くことはできず、電動アシストも使用できません。



※バッテリーの鍵はバッテリーのロックの機能しかありません。

※自転車の盗難防止には、二輪車用のチェーンなどを別途ご用意いただき、ご使用ください。

●バッテリーの取扱いについて

バッテリーは電動アシスト自転車のペダルアシストをするうえで重要な部品です。
バッテリー(リチウムイオン電池)の特性をよく理解して正しくご使用ください。
落したり、ぶつけたりしないようにていねいに扱しましょう。

バッテリー(リチウムイオン電池)の特性について

- リチウムイオン電池は高性能充電式電池の一種で充電と放電を繰り返し使用できる優れた電池です。
- バッテリーの寿命は気温・使用状態・充電の仕方などによって異なります。
- 充電回数の増加に伴い1回の充電容量が少なくなります。
- 長期間使用せずに保管すると自己放電によりバッテリー残量が次第に少なくなります。
- バッテリー保護のため、満充電後の再充電はしないでください。
- 冬期や寒い環境(5℃以下)では、充電1回あたりの走行距離が短くなります。これはバッテリーの特性で故障ではありません。
気温が高くなると走行距離はもとに戻ります。
- 夏期や熱い環境(40℃以上)では、
 - ※バッテリーの内部温度が高いときに充電しようとすると、充電できないときがあります。
 - ※バッテリーの温度が高いと、システム保護のためアシスト力が低下することがあります。
 - ※バッテリーの周辺温度が高いと、充電に時間がかかることがあります。適正な温度(5℃以上40℃以下)になれば回復します。

バッテリー交換の目安

(バッテリーには寿命があります)

- バッテリー交換は有料です。
バッテリーの交換時期は、使用状況、充電のしかたなどにより異なりますが満充電後の走行距離が新品時より、著しく短く(約半分以下)になった時が交換時期です。
- バッテリー交換時期の目安は、約500回の充電／放電で、使用期間は約1年半前後が目安です。
使用や保管の状況等により、500回未満の場合でも寿命(新品時の約半分以下)になる場合があります。
- ※冬期はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなります。また、ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる駐輪場でバッテリーを保管すると、通常より少ない充電回数や、短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。

※バッテリーは消耗品です。「バッテリー交換の目安」と保証期間は関係ありません。

※ご不明な点がございましたら、販売店にご相談ください。

長期間(1か月以上)保管するときの バッテリーの取扱い方法

- 電動アシスト自転車からバッテリーを取外し、満充電してから保管してください。
保管場所は気温0℃～40℃の範囲の場所で保管してください。
- バッテリーの劣化を抑えるため、最低2ヶ月に1回は充電してください。
- バッテリー残量表示ボタンを押した時にLEDランプが点灯しない場合は充電してください。
再充電ができない場合はバッテリーが劣化し寿命となった可能性があります。
- 長期間保管後に再使用する場合、予めバッテリー残量を確認し、不足している場合、必ず充電してご使用ください。
※バッテリー残量がない状態での長期保管は、早期劣化の原因になります。

リチウムイオン電池のリサイクルについて

- この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。
リチウムイオン電池またはこの商品を廃棄する場合はリチウムイオン電池を取外して販売店または、リサイクル協力店へお持ちください。環境保護と資源の有効活用をはかるため、電池の回収にご協力ください。

電池のリサイクルについて

- この商品に搭載している電池はリチウムイオンバッテリーです。
この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。

リサイクル協力店について

- 充電式電池の回収・リサイクル及びリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

交通ルールを守りましょう



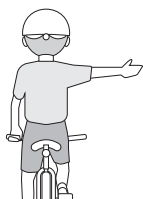
自転車で公道を走る際には、守らなければならないルールがあります。
安全運転のため、下記に記載の注意事項を必ずお守りください。
また、交通に関する法律や条例を調べ、必ずお守りください。

発進のしかた

- 道路の左側から発進します。
- 周囲に危険がないか確認してください。
- 後方の車両に対し、発進の合図をします。

※発進の合図＝

右手を地面と水平に
まっすぐ出す



歩道は歩行者優先

- 標識などで許可されている場合にみ、自転車も通行することができます。
- 歩道の中心より車道寄りを徐行速度で通行しましょう。
- 歩道は歩行者優先です。歩行者の妨げになる場合は、降車し、自転車を押して移動してください。

自転車が走行する位置

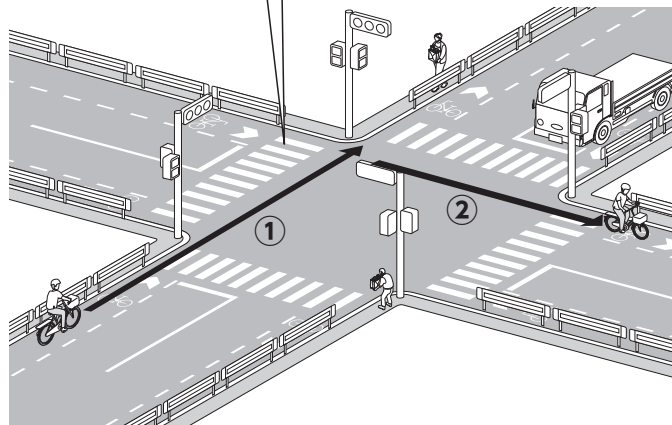
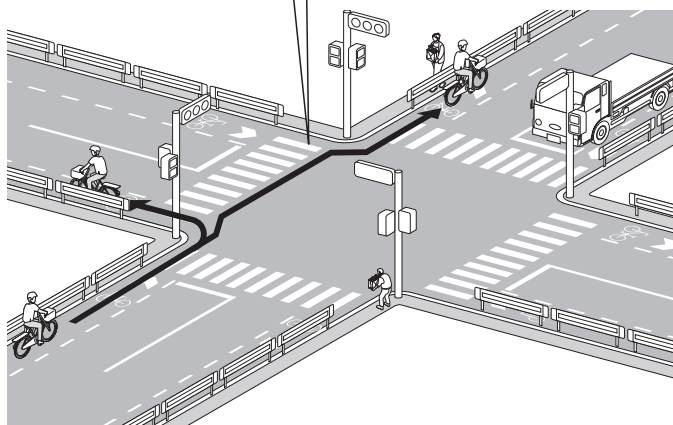
- 道路の左側を走行します。
- 自転車は軽車両のため、原則として車道の左側車線の左端を走行します。自転車専用レーンがある場合はそこを走行しましょう。

信号機のある交差点

- 信号機の指示に従い走行してください。
- 正面の信号機が青のとき、直進または左折ができます。
- 右折するときは2段階右折を行います。

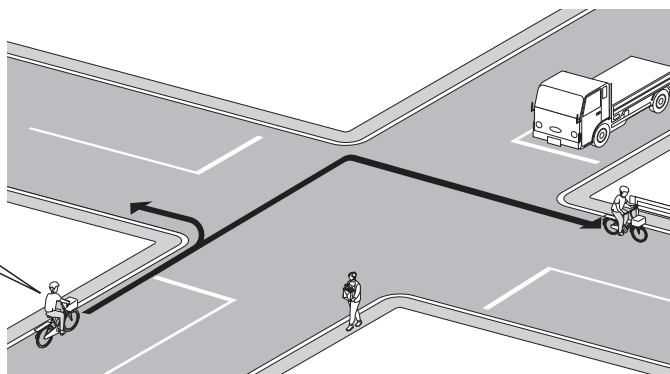
2 段階右折のしかた

- ①正面の信号が青のとき、直進し道路の向こう側まで進み停止します。自転車を右へ方向転換します。
- ②その後、右側の信号が青になってから進みます。

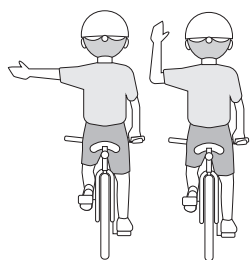


信号機のない交差点

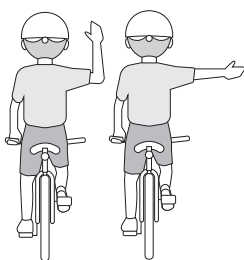
- 周囲の状況を確認し、安全と判断できから交差点に侵入してください。
- 自転車は、右折する際は原則として、どの交差点でも2段階右折をする必要があります。
- 右左折する場合は交差点の30m手前で合図を出します。



●自転車の合図(ハンドサイン)



左折・左へ進路変更



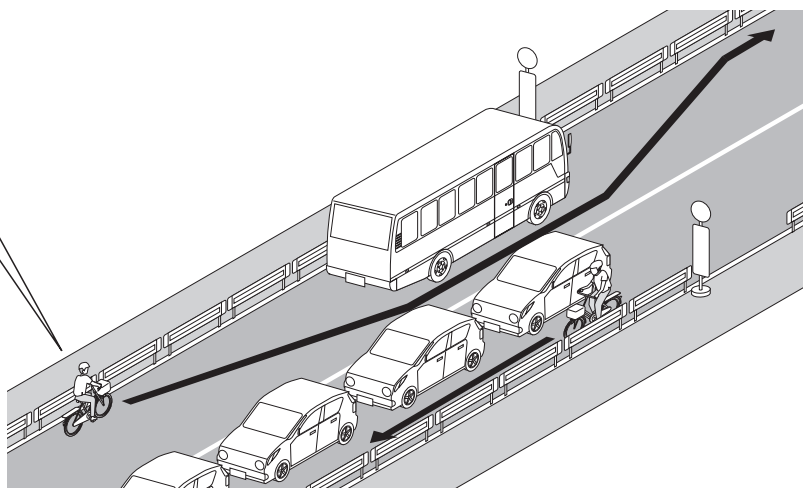
右折・右へ進路変更



停車(グーパーを繰り返すと減速)

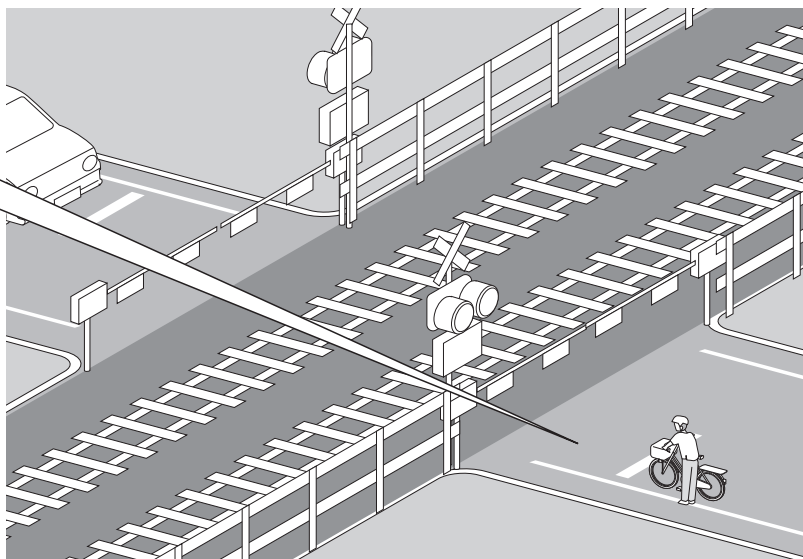
駐停車している車両を追い越すとき

- 渋滞などで停車している車両を追い越すときは、車両の左側を注意しながら進みます。急にドアが開いたり、左へ寄る可能性を考慮しながら進みましょう。
- 左側へ寄って駐車している車両は、右側を追い越すことができます。ただし、反対車線に入ることはできません。また、車両が発進の合図を出しているときは追い越さず、後ろで待ちましょう。
- その他、危険を感じたときは無理な追い越しはせず、安全に走行してください。



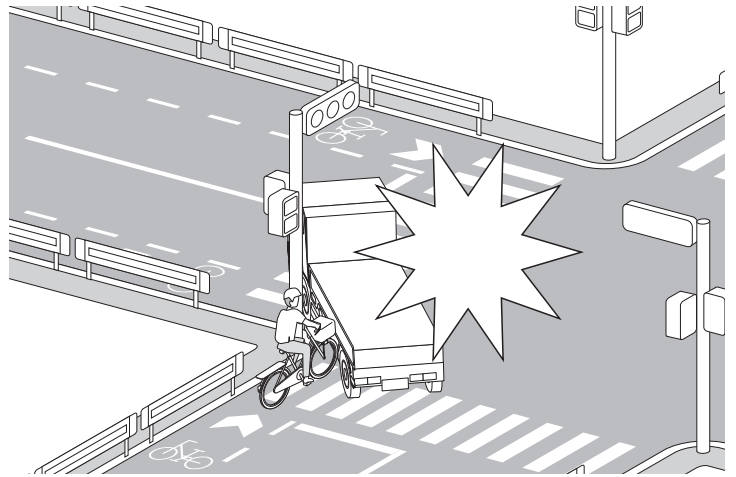
踏切では

- 遮断器が降りている場合や電車が近づいている場合は踏切前で停車し、自転車の左側へ降ります。
- 遮断器が上がっている場合でも踏切前で一時停止し、安全を確認しながら通行してください。
- 警報機がなっている場合や電車が近づいている場合は絶対に踏切内に侵入してはいけません。



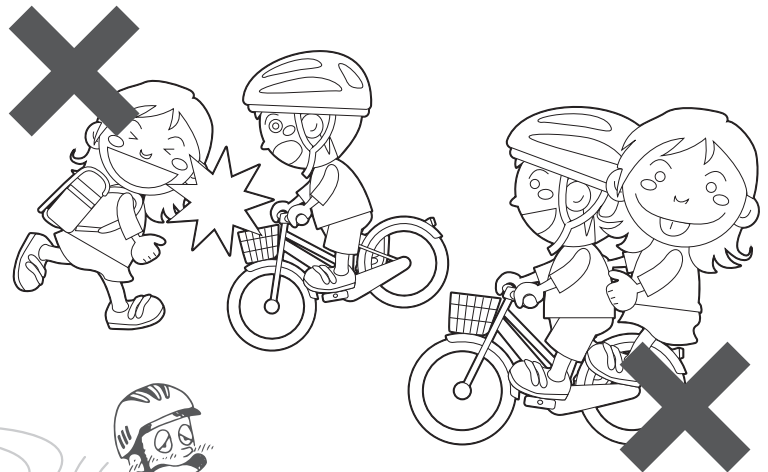
交差点での巻き込みに注意

- 自動車が右左折するとき、内輪差により車体が内側に寄せられます。自転車や歩行者が左折する自動車の左側にいるとき、巻き込まれる危険が高くなります。
- バスやトラックなど、車体が長い車両では特に注意が必要です。
- 左折車が左折するのを待ってから、交差点に進入してください。



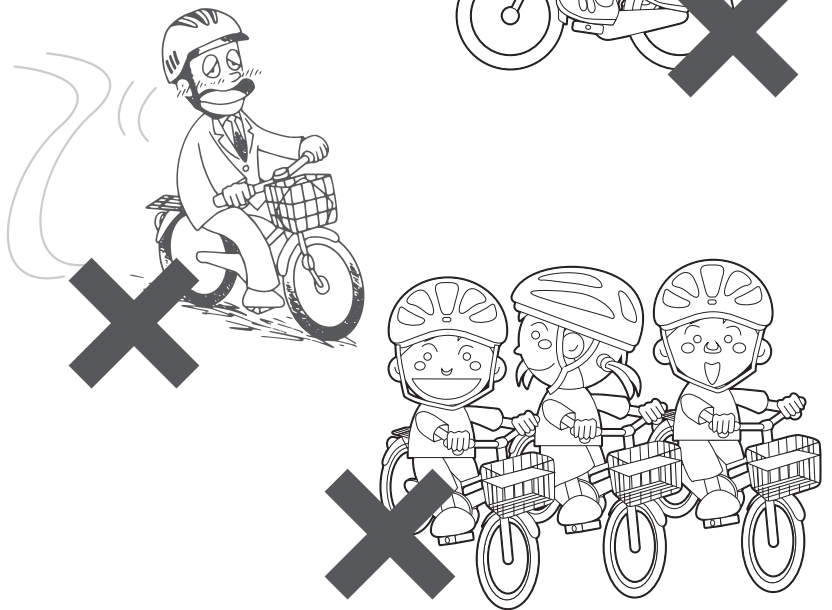
飛び出しに注意

- 公園や学校の近くでは、子どもが突然飛び出してくることがあります。衝突事故に注意してください。
- 交差点などでは自転車や歩行者、他の車両が突然進入してこないか、常に注意をしてください。



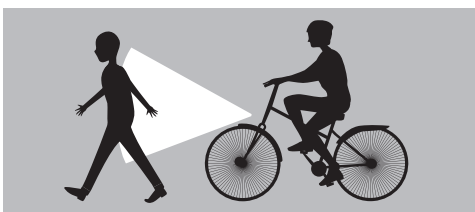
危険な運転は禁止

- 二人乗り**は禁止です。
「6歳未満の子どもを一人だけ乗せる」場合をのぞき、二人乗りは法律により罰せられます。
- 飲酒運転**は禁止です。
自転車でも、お酒を飲んでの運転は法律により罰せられます。
- 自転車の**並走**は禁止です。
- ジグザグ運転**や、その他の**危険運転**も禁止行為です。



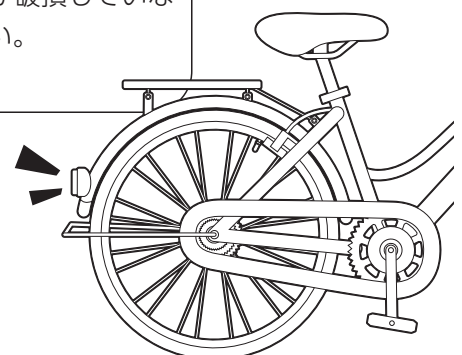
ライトを点灯する

- 夜間、およびトンネルではライトを点灯してください。前方確認の目的のほか、ライトが点灯していないと、前方から来る車両が自転車を視認できず、事故の危険が高くなります。
※ライトは別途ご購入ください。



リヤリフレクターを装備する

- 後方から来る車両が自転車を視認するために必要です。
- 発進前に、リフレクターが破損していないか確認を行ってください。



●自転車に関連する主な道路標識



●通行止め

歩行者を含めて通行できません。



●車両通行止め

歩行者以外は通行できません。



●自転車通行止め

自転車は通行できません。



●自転車専用

自転車専用レーンです。



●自転車及び歩行者専用

この標識のある歩道は自転車も通行できます。



●一時停止

この標識や、停止線などの道路標示のある場所では一時停止してください。



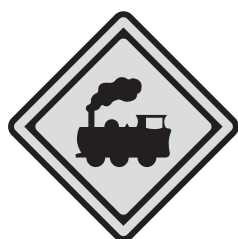
●横断歩道

横断歩道があります。歩行者を優先し、いない場合でも徐行して通行してください。



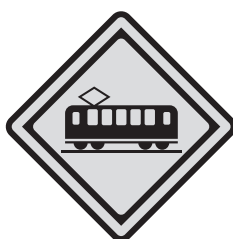
●自転車横断帯

自転車横断帯がある場合は、自転車はそこを通行してください。



●踏切あり

踏切があります。ルールを守り、注意して通行してください。



●学校・幼稚園などあり

近くに学校や幼稚園など、子どものいる施設があります。注意して通行してください。

防犯登録について

平成6年6月20日より自転車基本法(省略)が改正され、防犯登録が自転車利用者の義務となりました。

防犯登録をご希望の方は、お近くの「防犯登録所(自転車販売店)」にて手続きが出来ます。

防犯登録を受ける際、必要になるもの

- お求め頂いた自転車本体
- 販売証明書(付属の販売証明書に必要事項を記入してください。)
- お客さまの身分証明になるもの(運転免許証・健康保険証・学生証など)

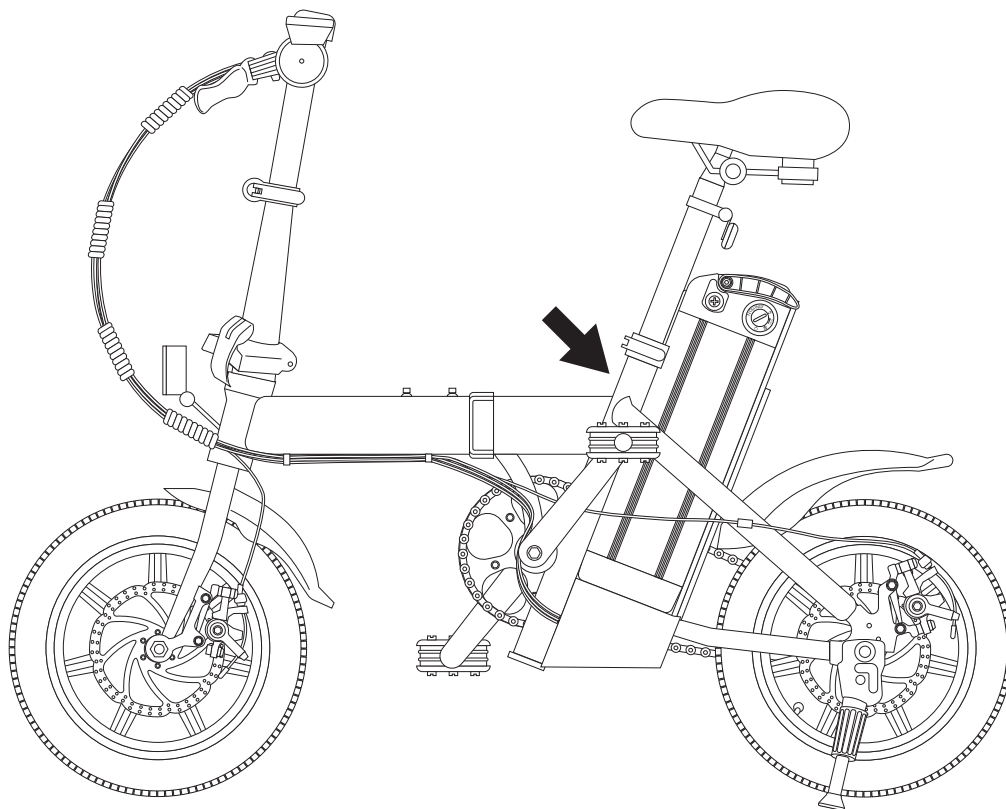
※防犯登録を受ける際は別途手数料が必要となります。(お客さまのご負担になります。)

その他、防犯登録についてご不明な点がございましたら最寄りの各都道府県防犯登録協会(自転車商協同組合)におたずねください。

大阪府自転車商防犯協力会 TEL06-6621-5350

東京都自転車商防犯協力会 TEL03-3251-8446

※防犯登録を受ける際に自転車の車体ナンバーを登録します。(下図参照)



廃棄時のお願い

- 自転車本体、部品等を廃棄するときは、各自治体の指示内容に従って処理してください。

点検・チェックリスト (点検時期外でも異常を感じた場合、点検・調整を受けてください)

(書き方 点検良好…○ 不備…×)

		2か月以内		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと		1年ごと	
		点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整	点検	調整
1	大きさは乗り手の体格に合っているか												
2	サドルにまたがって、足が地に届くか、またサドルの固定は確実か												
	●ハンドルの高さは適当か、また固定は確実か												
	●乗る人の上体が少し前に傾くように、サドルの前後の位置が調整されているか												
	●ハンドル・サドルの前後の角度は正確か												
3	フレーム・前ホークに変形や亀裂などはないか												
4	ヘッド・ハンガー小物にガタ・磨耗はないか												
5	ドロヨケはしっかりと取付けてあるか												
6	キャリヤがある場合、しっかりと取付けてあるか												
7	スタンプの取付と作動はよいか												
8	タイヤの空気の入り具合は適当か、タイヤはすり減っていないか												
9	ペダルはクランクと直角になっているか												
10	クランクに曲がりはないか、ギヤクランクは滑らかに回転しガタはないか												
11	ペダルはなめらかに回転するか												
12	車輪のふれ・スパークのゆるみ・軸部のガタはないか												
13	デイスクブレーキに摩耗はないか												
14	レバーの感覚は正常で前後のブレーキはよく効くか												
15	チェーンのたるみ・張りは適当か・外れていないか												
16	コントロールレバーは正常に作動しているか												
17	リフレクターはこわれていないか、汚れていないか												
18	ベルはよく鳴るか、ゆるんでないか												
19	鍵の取付と機能はよいか												
20	コード類に破損はないか。被膜破れがないか。												
21	フューホールの回転と注油はよいか												
22	チェーンケースの形状と取付はよいか												
定期点検 調整を実施した販売店並びに年月日		年 月 日	(印)	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)	年 月 日	(印)

●点検整備のお願い ■お買い求め後2か月以内に第1回目を、「第2回目はその後1年後どに実施してください。なお、点検・整備はお早めに販売店(組立整備資格者)に依頼される事をおすすめします。(有料)

(定期点検・整備) ■異常を感じた場合上記の点検を実施し、調整・修理してください。

製品保証書

製品名 折りたたみ電動アシスト自転車 JCL-EAB14		車体番号	
保証期間(お買い上げ日より) 本体 1年間		お買い上げ日 年 月 日	
お 客 様	フリガナ お名前		
	ご住所 〒 -		
	電話番号() -		
取扱販売店名・住所・電話番号			

〈保証規定〉

このたびは弊社製品をお買い上げ頂きありがとうございます。当社ではアフターサービスを提供することを保証いたします。お客様の権益を保護するため、下記の文章をご覧ください。

- ご購入日から保証期間内に正常なご使用で故障が発生した場合、製品と製品保証書をご持参のうえ、お買い上げ販売店にお申しつけください。当社無料修理保証規定に基づき無償で本体を修理、または新品と交換いたします。
- 保証の適用除外
次に示すものに起因する故障は保証修理の対象となりません。(使用者負担になります。)
ア. 使用者の使用上の不注意によるもの。
イ. 衝突、転倒、道路の段差等に乗り上げまたは溝等に落ちて生じたもの。
ウ. 法令の違反行為によって生じたもの(最大積載量オーバー、二人乗り等)
エ. 保守、整備の不備により生じたもの。
オ. 当社が指定する定期点検調整を実施しなかった場合。
カ. 使用者が構造、機能を改造または変更したため生じたもの。
キ. 酷使または一般に自転車が行き止まりない場所での走行(道のない山岳ツーリング、道のない土手の傾斜面等)により生じたもの。
ク. レンタサイクルなど不特定多数で使用される場合。
ケ. 地震、落雷、火災、水害、その他人災、天災、地変によって生じたもの。
コ. 手入れ不十分、保管場所の不備及び時の経過により生じた塗装面、メッキ面、その他これに類する不具合及びプラスチック部品等の自然退色。
サ. 部品の通常の摩耗または疲労と認められたもの(タイヤ、チューブ、ブレーキ用のゴム等のゴム類)
シ. 釘、ピン、ガラス、切削くず、鋭利な石ころ等で生じるパンク。
ス. 一般に機能上の影響のない感覚的現象(音、振動等)
セ. 本保証書に示す条件以外の費用等。
ソ. この保証書は盗難保険ではありません。盗難保証書及び防犯登録については販売店に相談ください。

◇保証修理を受ける為の条件及び手続き

- 保証修理をうけるためにはつぎの事柄をご了承ください。
- 保証修理をうける場合、本保証書と自転車をご持参ください。
- なお本証の提示がないと保証修理は受けられません。本保証書は字句等を書き換えた場合は無効とします。
- ご贈答、転居及び他に譲渡する場合についてはお買い上げ店にご相談ください。
- お買い上げの自転車は初期点検(2ヶ月以内)その後1年ごとの定期点検を受けてください。
- この定期点検を受ける際には自転車と定期点検チェックリストをご提示ください。定期点検、調整は有料です。
- この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体ナンバーの刻印があるものに適用されます。海外に持ち出す場合はその時点で打ち切りになります。
- 保証修理に関するお問い合わせは、お買い上げ店にご相談ください。
- 修理に関して出張修理の依頼を受けたときは、出張費を請求する場合があります。

保証対象外部品(つぎに示す物の、交換修理は使用者負担となります。)

バッテリー、充電器、かご、バック、ドレスガード等の付属品、ブレーキワイヤー、変速ワイヤー、取付金具、コード類、その他、「コ・サ」の項の摩耗品及び疲労品、使用者が、ご自分で取り付けた部品。

- この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束する物です。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 保証期間経過後の修理等についてご不明な点はお買い上げ店又は、相談窓口(品質保証書記載の住所)にご相談ください。

◇部品の保証期間

保証期間経過後でも機能を保持するための補修機能部品は、お買い上げ店又は製造業者に常時保有しております。但し、新型が売り出された場合は、新型で保有しておりますので予めご了承ください。

販売元 株式会社TOHO



サポートセンター電話番号

03-6803-0191

受付時間/月~金10:00~12:00 13:00~16:00
土、日、祝祭日および当社規定休業日を除く